

## 議会報告・意見交換会 記録(集約)

平成27年度

会場	区分	質疑・意見・要望の要旨	取扱に至った経過、対応方針等
佐久	市民	市内の医療機関において、居住地域によって患者の受け入れに制約があるか。以前にそのような理由で断られたとの話を聞いたことがあるが。	佐久市内の医療機関において、そのような扱いはないと考えられます。
佐久大学	学生	産後の母親が、市主催のケアの家の集まりに、自主的に参加できるように。(無理して参加している場面もある)例えば、インターネット、SNSを使ったアドバイスが欲しい。さらに、病院医師とのネットワークが出来ればよいと思います。	子どもの疾病対応事業として出前講座「教えてドクター」の実施(H27年度事業)や、子育て中の困りごと悩み事に対応した「子育てコーディネーター」事業が開始されたことから事業の経過を見守る中で、市へ要望して行きたいと考えております。
佐久	市民	資料中、地域医療問題特別委員会の設置目的の「地域医療の崩壊」とは何を指すのか。	佐久総合病院の分割移転や医師不足、1つの医療機関で1次医療から3次医療までを受け持ち医師が疲弊している状況から、当時はこのままでは、地域の医療が危ないという雰囲気がありました。佐久病院の医療センター建設を含めた再構築と合わせてこの特別委員会が作られた。川西赤十字病院やくろさわ病院への補助など、公立、公的、民間病院への補助のあり方も変わってきています。
浅科	市民	地域医療問題特別委員会の設置目的に「地域医療崩壊から地域医療を守る」とあるが、地域医療の崩壊とは具体的に何か。	地域医療の核である同病院が再構築され、佐久医療センターができたということで、当初の設置目的は達成したと考えますが、引き続き地域医療問題を考えていこうということで継続しています。
浅科	市民	佐久総合病院の再構築は達成されたが、今後も地域医療問題特別委員会は継続していくのか。	地域医療の核である同病院が再構築され、佐久医療センターができたということで、当初の設置目的は達成したと考えますが、引き続き地域医療問題を考えていこうということで継続しています。
浅科	市民	地域医療問題特別委員会の活動紹介に「市民が感じている地域の医療問題を検証しながら」とあるが、どういう意味か。	市民から多くの意見を聞きながら地域医療問題を検証していこうというものです。
佐久大学	学生	佐久市の小児科医の高齢化が進んでいると聞いたことがある。佐久市で子育てしたいと思う為にも改善していったらどうかと思う。	貴重なご意見として承りました。
佐久大学	学生	健康対策をちゃんとしていそうだなと思う。大きな病院、クリニックも多いと感じる。佐久は年を取って余生を過ごすにはいいところだと思う。	貴重なご意見として承りました。
佐久大学	学生	医療機関による体制が整っている。	貴重なご意見として承りました。